

令和2年度 第1回市川市博物館協議会

日 時 令和2年8月5日(水)
午後2時 ～午後4時
会 場 市立市川歴史博物館 2階講堂

会 議 次 第

1. 議 題

(1) 報告事項

- ・令和元年度事業実施状況に対する自己評価について
- ・令和2年度館別事業計画の修正について

(2) 協議事項

- ・令和元年度事業実施状況に対する外部評価について

(3) その他について

- ・次回の協議会(開催日程等)について

令和2年度 第1回 市川市博物館協議会

会 議 資 料

令和2年8月5日(水) 午後2時

市川歴史博物館 2階 講堂

市川市教育委員会 生涯学習部 考古博物館

市川市立博物館 令和元年度事業実施状況に対する外部評価

評価基準 A：参加者数、内容、参加者満足度すべてに見込みを上回る成果を得ることができた。（目標の90%以上）
 B：ほぼ見込みどおりの結果を得た。（目標の80～75%程度）
 C：改善の余地があるものと考えられる。（目標の60%程度）
 D：今後の計画に際しては、実施を含めて検討する必要があると思われる。（目標の50%に満たない）

事業種別	館名	館別意見（概略）	館別自己評価	総合自己評価	外部意見等	外部評価
収集・保管及び調査研究	考古	市史編さん事業と連動した形で市内の自然貝塚の調査を進め、見込み通りの成果があがった。	B	B	協議会における意見の概要	協議会で結論を得る
	歴史	収蔵資料の古文書（800点余り）の整理（目録作成）が進むとともに、収蔵室自体の整理も進んだ。	B			
	自然	データベース化が進行しなかった。新規の資料収集もほとんどできなかった。	C			
展示	考古	LEDへの交換にともなって、展示ケースが明るく見やすい展示になった。また、多目的トイレをLED交換を実施した。	B	B		
	歴史	小学生向けの解説キャプションを増やしたり、展示資料のメンテナンスを行った。	B			
	自然	新型コロナウイルスによる感染拡大防止のための臨時休館までは、問題なく運営することができた。	B			
市民向けの教育普及	考古	座学の講座という従来型の講座の形態であるが、毎月の受講生の出席率は80%前後を維持している。評価も好評を維持している。	B	B		
	歴史	新たに中世史講座（古文書講座）を実施したことと、民俗学講座で地域の地誌等を紹介する内容にしたところ参加者が増加した。	B			
	自然	自然観察会、散策会等 3回雨天中止 コロナウイルス感染拡大防止のため中止2回	B			
学校関連の教育普及	考古	学校巡回展は今年度も弥生時代レプリカ法をテーマに、未実施の学校で開催した。出前授業は、縄文体験学習。本物の土器や石器に触れることができるため、好評であった。	B	B		
	歴史	学習指導要領の改訂に合わせて展示を行っていることから、多くの小学校のアンケートにおいて、満足度の高い回答を得ている。	A			
	自然	中山小学校や塩焼幼稚園など市内園学校、越中島小学校（都内）、国府台女子学院（私立）、千葉商科大学などから依頼があった。	B			
地域連携の教育普及	考古	友の会からの要請に基づき、見学会講師などで協力した。	B	B		
	歴史	今年度も公民館の設定するテーマや地域に関する歴史講座を実施した。	B			
	自然	公民館や市民団体等の講座講師依頼に適切に対応した。	B			
運営	考古	考古博物館の事業内容をアピールした。	B	B		
	歴史	限られた予算の中で、必要な施設維持管理に努めた。	B			
	自然	施設の維持管理及び庶務事務について予定どおり実施した。	B			

令和元年度 考古博物館 事業実施状況評価

評 A:参加者数、内容、満足度全てに見込み以上の成果を得た(90%上)
 価 B:ほぼ見込み通りの成果を得た(75~80%程度)
 基 C:改善の余地あり(60%程度)
 準 D:実施を含めて検討の要あり(50%下)

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
収集・保管及び調査研究事業	収蔵資料の調査研究及び整理	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	市史編さん事業と連動した形で市内の自然貝層の調査を進め、見込み通りの成果があがった。	調査研究のスペースをうまく確保したい。
	市史編纂関係報告書作成(曾谷貝塚・下総国府)	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	C	本年度は曾谷貝塚・下総国府とも報告書は完成しなかった。	報告書作成の時間を確保したい。
	平成28年度考古博物館館報(紀要)の制作及び発行	3月、900部	3月、800部	B	博物館活動の年間記録及び調査研究成果を、他の博物館や一般市民等に提供した。	次年度についても、制作及び発行する。
	博物館資料の管理(図書及び関係機関住所等管理)	年間を通して約1,000点を登録予定	年間を通して実施し、約900冊を登録した。	B	博物館関連団体に関する情報及び寄贈図書を整理登録した。	次年度についても、実施したい。
	各種研究会への参加、各地博物館の見学	年間10回以上	10回、27人	B	学芸員のスキルアップ向上に貢献している。	本事業へ学芸員が出席できる一層の環境整備。

展示事業	常設の展示ケース及び多目トイレをLED交換を実施した。	年間を通して実施する。	常設展は年間を通して実施した。	B	LEDへの交換にともなって、展示ケースが明るく見やすい展示になった。また、多目的トイレをLED交換を実施した。	部分的に修繕を要する箇所が残っている。
	企画展「大地からのメッセージ」	7/6~9/8	7/6~9/8	B	平成9年から実施されてきた外かん自動車道関係の発掘成果を展示し、好評であった。	引き続き別のテーマで実施したい。
	ホール小展示1「指で編む—組紐古技法『クテ打』試作展」	前年度~6/10	前年度~7/28	B	組紐ボランティアの活動や成果の紹介を兼ねて、クテ打の指操作技法をテーマに開催した。	引き続き別のテーマで実施したい。
	ホール小展示1「下総に咲いた華—下総国分寺と宝相華文—」	8/10~R2.6/7	8/10~R2.6/7	B	下総国分寺創建期の瓦当文様に採用された宝相華文を紹介した。	引き続き別のテーマで実施したい。
	速報展「外環自動車道の遺跡」 「第8回 雷下遺跡」	年間を通して実施し、発掘に合わせて展示替えを行う。	30/1/5~R1/9/8	B	市内最古の縄文貝塚について新たな視点を提示することができ、好評であった。	引き続き別のテーマで実施したい。
	展示解説	年間を通して、実施した。	26回、401人	B	随時、来館者に行っている展示解説であり、毎回、概ね好評であった。	引き続き実施したい。

令和元年度 考古博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
教育普及事業 ①全市民対象	考古博物館講座 (『続日本紀』、『日本霊異記』を読む)	ともに月1回	続日本紀：6回、 427人 日本霊異記：8回、 507人	B	座学の講座という従来型の講座の形態であるが、毎月の受講生の出席率は80%前後を維持している。評価も好評を維持している。	受講生（大半が市川市民）に期待に応え、『続日本紀』『日本霊異記』講読の講座を継続したい。
	考古博物館指導員養成講座(縄文学習・火おこし・組紐)	3種 11回	0回 0人	B	ボランティアの火おこし指導員と縄文学習指導員の養成講座を実施し、修了生の受け入れをおこなった。修了者にはわかりやすかったと好評であった。	応募者数が基本的に5人以下と少ない。
	ボランティア研修日・活動日(縄文学習・火おこし・組紐)	年間を通して、実施する。	21回、156人	B	縄文学習・火おこしは、4～6月まで小学校6年生を対象に活動。以後は各ボランティアとも土日やフェスティバルを中心に活動した。	秋にはイベントが多いため、出張依頼が重複して対応できないケースがあった。
	考古博物館体験学習(土器、勾玉、組紐)	毎週土、日曜日	29回 581人	B	土器づくりは、博物館友の会と共催事業であり(全4回)、概ね好評であった。	土器づくりは、粘土の確保が大きな課題となっている。
	企画展関連講演会「市川から発信する新たな縄文文化」	7月13日	全日警ホール 参加人数212人	B	事前の広報活動が功を奏し、多くの参加者があり、好評であった。	今後とも、事前の広報活動を徹底したい。
	ナイトミュージアム	8月4日	8/4 236人	B	新たな夏休みのイベントとして、考古博物館でミニコンサート開催、歴史博物館で怪談の紙芝居や幽霊画(複製)等の展示を行い、概ね好評を得た。	夜間における来場者や駐車場の整理が問題である。
	夏休みスタンプラリー	夏休み期間中	7/20～9/1 参加人数398人	B	夏休み期間の恒例行事として定着しつつあり、参加者数も安定している。	今後も継続して開催したい。
	博物館フェスティバル	8/17、11/3	8/17、284人 11/3、69人	B	8月はサマーフェスタ、11月はオータムフェスタ、概ね2回とも好評であった。3月の縄文体験フェスティバルは中止であった。	室外の出しものがあるイベントのため、悪天候時の対応が課題である。

令和元年度 考古博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
教育普及事業 ②学校連携	学校巡回展、出前授業	申し込みを受けて実施する。	学校巡回展：3校 (大和田・塩焼・市川小) 出前授業：7校 見学1校	B	学校巡回展は今年度も弥生時代レプリカ法をテーマに、未実施の学校で開催した。出前授業は、縄文体験学習。本物の土器や石器に触れることができるため、好評であった。	学校巡回展は開催する学校の担当教員の関心により、対応に差があった。出前授業は学校からの申し込みが重複することが多く、来館を断念する学校があった。
	小学生向け体験学習指導	申し込みを受けて実施する。	17校 1583人	B	縄文時代の生活の様子を見学と体験で学ぶ毎年恒例の縄文体験学習。大変好評であった。	学校からの申し込みが重複することが多く、来館を断念する学校があった。
	中学生職場体験指導	申し込みを受けて実施する。	7校 22人	B	学芸員の専門的な仕事を実際に体験していただいた。博物館での職場体験を希望して来た生徒もおり、概ね好評であった。	学校からの申し込みが重複することがあった。
	高校生ボランティア活動支援	申し込みを受けて実施する。	0人	B	夏休み期間中の組紐・勾玉づくりに高校生が参加した。	集中して取り組めるように参加する日数や時間に調整を要する。
	小・中・高校生調べ学習指導	申し込みを受けて実施する。	申し込みを受けて実施した。	B	随時、対応しているが、概ね満足していただいている。	事前に連絡がないこともあり、学芸員が不在であることもあった。
	大学生学芸員課程館務実習指導	5～6月に実施する。	3大学、3人	B	ホールの小展示を中心に実習をおこない、通年で展示をおこなう。展示ができ、実習を終了した。	最近に参加の学生が3～5人であり、パソコンの操作に長けた学生の有無で、実習の進捗に差が出るので、その状況への対応が課題。
	教員対象の博物館利用研修	申し込みを受けて実施する。	1回、6人	B	学校向け事業の概要説明、常設展の解説、学校向け体験学習の実体験、国史跡・堀之内貝塚の見学をセットにした研修。全体にわかりやすいと好評であった。	学校教育と博物館の連携強化に繋がるように、研修後のフォローも心掛けておきたい。
	教員対象フォローアップ研修	申し込みを受けて実施する。	0回、0人	B	学芸員の仕事の一部を実際に体験する研修会。専門的な内容であったが、学外研修としては好評であった。	夏休み期間中であることから、職員の出勤日と研修日の調整が難しかった。
	社会科副読本『わたしたちの市川』制作協力	年間を通して実施する。	今年度は特に要請がなかった。			要請があれば、対応していく。

令和元年度 考古博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
教育普及事業 ③地域連携	博物館友の会事業への協力	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	友の会からの要請に基づき、見学会講師などで協力した。	次年度についても、要請があれば協力していく。
	友の会見学会「館山方面の史跡を訪ねる」	計画外	R2.2/2、57人	B	友の会主催のバス見学会で、講師都合により、事前勉強会、バス見学会の講師への要請があり、実施。好評であった。	共催事業での見学会よりも、企画などの手間が省ける分、友の会見学会への講師での参加の方が負担は少ない。
	公民館講座	申し込みを受けて実施する。	3回、87人	B	博物館学芸員への講演依頼（とくに縄文、奈良平安時代）は毎年一定の要請があり、好評である。	次年度以降も博物館活動認知のため、要請があれば開催したい。
	地域まつりへの出張展示、展示解説及び体験指導	申し込みを受けて実施する。	6回 419人	B	地域まつりへに参加は、土器の展示や地域の話題に根ざした講演をおこない、博物館に来館されない市民の皆さんとも触れ合うことができる貴重な機会と認識している。小学校のPTAなどが主催するイベントでは、おもに火おこし体験の出張指導を実施し、概ね好評であった。	小学校のPTAなどが主催するイベントは、秋に集中するため、当館の事業との日程調整が難しく今後の課題である。
	観光関係機関、部署との連携	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。 他自治体主催講演会3回	B	他自治体の講演は、銚子市・市原市・鎌ヶ谷市の3ヶ所で、概ね好評であった。	次年度についても、連携を図っていきたい。

運営	考古・歴史博物館だよりの制作及び発行	4回／年	4回／年	B	考古博物館の事業内容をアピールした。	制作及び発行を継続したい。
	令和2年度考古・歴史博物館行事案内の発行	3月、10,000部	3月、10,000部	B	公式サイトやSNSなどのQRコードを追加した。	今後も継続して発行したい。
	施設の維持管理及び庶務事務	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	考古博物館の施設維持に必要な予算を確保し、維持管理に努めた。	予算が厳しい状況ではあるが、施設維持に必要な経費を要求する。

令和元年度 歴史博物館 事業実施状況評価

評 A:参加者数、内容、満足度全てに見込み以上の成果を得た(90%上)
 価 B:ほぼ見込み通りの成果を得た(75~80%程度)
 基 C:改善の余地あり(60%程度)
 準 D:実施を含めて検討の要あり(50%下)

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
収集・保管及び調査研究事業	収蔵資料の調査研究、整理及び維持管理	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	収蔵資料の古文書(800点余り)の整理(目録作成)が進むとともに、収蔵室自体の整理も進んだ。	収蔵資料の調査に要する時間が不足している。
	市内学校所蔵資料調査	事前に調整して実施する。	年間を通して1校実施した。	B	1校の郷土学習室の展示リニューアルと所蔵資料のクリーニングを行った。	郷土学習室のリニューアル方法が順調に運用できはじめていたので、希望校に実施する。
	資料及び古写真のデータベース化	年間を通して実施する。	ほとんど実施できなかった。	C	収蔵資料の古写真のデジタル化作業を開始したのみに終わった。	資料整理に要する時間が不足している。
	平成30年度歴史博物館館報(紀要)の制作及び発行	3月、800部	3月に800部を発行した。	B	博物館活動の年間記録及び調査研究成果を、他の博物館や一般市民等に提供した。	博物館活動をより多くの人々に知ってもらうための措置を行う(頒布先を増やす等)。
	博物館資料の管理(図書及び関係機関住所等管理)	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	博物館関連団体に関する情報及び寄贈図書を整理登録した。364冊	本の保管場所が不足しており、図書館の整理に着手する。
	各種研究会への参加、各地博物館の見学	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	足立区立郷土博物館他15館への見学・資料調査、各種研究会への参加を通して新たな知見を得るとともに、学芸活動について見直す機会となった。	研修会や学会への参加や、他の博物館等の見学会や資料調査・体験学習の参加等の機会を増やし、当館の展示や体験学習等に活用する。
展示事業	常設展示	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	小学生向けの解説キャプションを増やしたり、展示資料のメンテナンスを行った。	引き続きキャプションの入替や、展示資料のメンテナンス等を行う。
	企画展「発見 体験 昔の暮らし」	11~2月	11/3~2/16 入館者5,614人	A	市域の土地利用の変遷の地図や写真パネルを増やすなど小学生でもわかりやすく学習できることを目標に変更した。また、電話機を機器に接続し音が出るようにしたことで、来館者に好評を得た。	令和2年の学習指導要領の改訂に合わせて、学習しやすい展示を行う。
	企画展「季節の展示」	時期に合わせて実施する。	春1回、夏1回、 新春1回	B	新たに夏季用の「妖怪や市内の怪異」をテーマをすえて展示を行った。その他、ひな人形、地域の年中行事の展示も行った。	展示テーマを子供向けや大人向けなど、変化をつけ絞切形化しないよう心がけたい。
	収蔵資料展	9月~12月	9/7~2020.1/7	B	大学生の博物館実習の一環で、八幡地域に関する文書資料や富士講の拝み筆笥などを展示した。	ここ数年実習生の人数も多くなっているため、より良い館務実習になるよう対応したい。
	展示解説	年間を通して、また企画展開催中実施	76回、370人	B	展示解説の希望者に随時解説を行うとともに、子供用の解説シート(クイズ)を利用する親子や児童の数が増えた。	学芸員が不在の場合も多く、参加人数が減少してしまっただけで、人数を増やす機会を設けたい。

令和元年度 歴史博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
教育普及事業 ① 全市民対象	歴史博物館講座（近代史、民俗学）	中世3回 近代10回 民俗4回	13回、254人	B	新たに中世史講座（古文書講座）を実施したことと、民俗学講座で地域の地誌等を紹介する内容にしたところ参加者が増加した。	近世史関係の講座の実施。
	体験学習指導員研修	10回	8回、73人	A	近隣地域の博物館見学や、他館での体験学習の見学を行った。	他館での体験学習内容などを実際に見て今後の博物館活動へつなげていきたい。
	昔の遊び体験（紙芝居、紋切り遊び、火打ち石等）	毎週土・日曜日	68回、740人	B	来館者からは好評を得ているが、ボランティア講師のスケジュールが合わず、休止することがあった。	リピーターも来てくれているが、広報活動に力を入れて新規の来館者を増やしていきたい。
	季節の行事体験（七夕飾り、正月飾り作り）	7月、12月	7/7、18人 12/14、21人	A	受講者の満足度も高く、より多くの申し込みがあった。	竹や藁などの材料を確保は例年の課題である。正月飾り作りでは、指導員の事前研修にも力を入れていきたい。
	昔の暮らしや地域に関する各種体験	時期に合わせて実施する。	4回（昔の洗濯、歴史地図作り、和綴じ本作り）	B	各種体験学習の受講者は微増した。ボランティア指導員の対応も適切なものであった。	幅広い年齢層の受講者に対応できるようにしたい。
	歴史カレッジ及び関連講演会	10回	参加者 延べ384人	B	今年度の担当は歴史博物館で、定員50人の内60%以上の出席者が45人となり、概ね好評を得ることができた。	さらなる講座の内容の充実を図ってきたい。
	博物館フェスティバル	2回	サマーフェスタ 8/17 173人 オータムフェスタ 11/3 69人	B	参加人数が前年より減少した。また、縄文フェスティバルは、新型コロナウイルスの影響で中止となった。	事業の見直しについて、検討する必要がある。
	ナイトミュージアム	1回	8/4、170人	B	新たな夏休みのイベントとして、考古博物館でミニコンサート開催、歴史博物館で怪談の紙芝居や幽霊画（複製）等の展示を行い、概ね好評を得た。	夜間における来場者や駐車場の整理が問題である。
教育普及事業 ② 学校連携	学校巡回展、教材用資料貸出、出前授業	申し込みを受けて実施する。	出前授業1校、50人	B	出張授業では小学校の要望に合わせて、企画展示室では行っていない体験を行った。	学習指導要領の改訂に伴って、授業の内容を検討したい。
	小学生向け体験学習指導（昔の暮らし体験）	申し込みを受けて実施する。	19校 1,653人	A	学習指導要領の改訂に合わせて展示を行っていることから、多くの小学校のアンケートにおいて、満足度の高い回答を得ている。	小学生だけではなく、一般の来館者にも楽しみながら体験と見学ができる展示を目指す。
	中学生職場体験指導	申し込みを受けて実施する。	5校17人	B	中学校からの依頼により、主に博物館資料の整理や清掃を行った。	中学生に、博物館の役割を知ってもらう機会としたい。
	小・中・高校生調べ学習指導	申し込みを受けて実施する。	申し込みに応じ実施した。	B	夏休みを中心に、学区の歴史や年中行事に関する学習等に対応した。	周知に努めて、また具体的なテーマなどを示していきたい。
	大学生学芸員課程館務実習指導	8/23、8/30～9/6	6大学、6人	B	大学の依頼により、学芸員資格取得のための実習を実施した。	資料整理や調査、展示作業、展示説明などの実習を行う。
	教員対象フォローアップ研修	申し込みを受けて実施する。	2回、2人	B	小学校及び中学校の依頼により、教員の外部施設への研修の一環として、学芸員業務の補助を行った。	小学校及び中学校の教員が、博物館の利用について理解できるような機会としたい。
	社会科副読本『わたしたちの市川』制作協力	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	新たな社会科副読本の制作に協力をした。	社会科副読本の活用の仕方。

令和元年度 歴史博物館 事業実施状況評価

		目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
教育普及事業 ③地域連携	博物館友の会事業への協力	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	今年度も、友の会事業への講師派遣、会報の原稿執筆、活動場所の提供、資料調査協力などを行った。	市内の歴史・民俗資料、拓本等の調査に協力をするとともに、会主催の展示会に協力をする。
	公民館講座（公民館主催講座への講師派遣）	申し込みを受けて実施する。	3回、69人	B	今年度も公民館の設定するテーマや地域に関する歴史講座を実施した。	出来るだけ公民館側の要望に応えられるような講座を実施する。
	地域まつりへの出張展示、展示解説及び体験指導	申し込みを受けて実施する。	1回、89人	B	市内の小学校（1校）を会場とした地域祭りに参加した（火おこし体験）。	今後も、出来るだけ引き受けたい。
	地元民俗行事協力	1月	1/20、堀之内自治会	B	堀之内地域で行われている辻きり行事を伝承するため、毎年製作される辻切りの大蛇を展示し、関連の企画展を行った。	市内でも認知度が低いため、実施日程などを積極的に広報していきたい。
運営	考古・歴史博物館だよりの制作及び発行	4回／年	4回／年	B	予定通り発行した。	配布場所や配布方法について検討をする。
	平成31年度考古・歴史博物館行事案内の発行	3月、10,000部	3月、10,000部	B	予定通り発行した。	今後も継続して発行する。
	施設の維持管理及び庶務事務	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	限られた予算の中で必要な施設維持管理に努めた。	今年度も、施設維持に必要な経費を要求する。

令和元年度 自然博物館 事業実施状況評価

評 A:参加者数、内容、満足度全てに見込み以上の成果を得た(90%上)
 価 B:ほぼ見込み通りの成果を得た(75~80%程度)
 基 C:改善の余地あり(60%程度)
 準 D:実施を含めて検討の要あり(50%下)

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
収集・保管及び調査研究事業	収蔵資料の調査及び整理	年間を通して実施する。	年間を通して対応したが、作業にかけた時間数は多くなかった。	C	データベース化が進行しなかった。新規の資料収集もほとんどできなかった。収蔵資料の整理についてはボランティアの方の協力を得て昆虫標本について整理が進んだ。	新規に収集した資料を収蔵しデータベース化して公開するまでの流れを、理想論ではなく現状のなかでどうやりきるか、学芸員の世代交代期であるいま、業務フローを再構築したい。
	トビハゼ生息状況調査(トビハゼ保全施設連絡会)	年間を通して実施する。	年間を通して予定した内容の一部を実施した。	B	「トビハゼ保全施設連絡会」の運営と、巣穴調査、稚魚調査、観察会を行うことができた。緊急事態宣言下で、会議が1回、中止になった。	新型コロナウイルスの感染拡大防止の取り組みのなかで、できることを再検討する必要がある。
	資料の電子化	年間を通して実施する。	年間を通して対応したが、作業にかけた時間数は多くなかった。	C	スライドフィルムのデジタル化を進めたが、あまりはかどらなかった。	フィルムの劣化が進行する前に、順次行っていきたい。
	博物館資料の管理(図書及び関係機関住所等管理)	年間を通して実施する。	年間を通して対応したが、作業にかけた時間数は多くなかった。	B	図書資料については、ボランティアの方の協力を得て、書庫の整理が進んだが、緊急事態宣言を受け、年度末の活動は控えてもらった。	新型コロナウイルスの感染拡大防止の取り組みのなかで、できることを再検討する必要がある。
	各種研究会への参加、各地博物館の見学	適宜実施する。	行わなかった。	C	他の業務との兼ね合いで、行えなかった。	現状では後回しにせざるを得ないが、機会を見つけて行いたい。

展示事業	常設展	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	新型コロナウイルスによる感染拡大防止のための臨時休館までは、問題なく運営することができた。	新型コロナウイルスの感染拡大防止の取り組みのなかで休止することにした展示が多くあり、また、展示ケース等の消毒という新たな業務も発生したため、展示室の管理運用全般について大きく見直す必要がある。
	ホール小展示	年間を通して実施する。	年間を通して実施した。	B	生き物の飼育展示が人気であり、好意で提供された外国産の昆虫の展示なども継続して行うことができた。	常設展同様、大きく見直す必要がある。
	展示解説	年間を通して、また開催期間中実施	違う形で実施した。	A	当館の場合、ツアー形式の展示解説はなじまない。来館者の動向に合わせて、臨機応変に対応している。	新型コロナウイルスの感染拡大防止の取り組みのなかで来館者への直接的な対応を控えめにせざるをえず、情報発信の形を考え直す必要がある。

令和元年度 自然博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
教育普及事業 ①全市民対象	自然観察会、散策会 (親子自然観察会、 季節を感じる散策会、 長田谷津散策会等)	22回	17回実施した。 参加431人	B	自然観察会、散策会等3回雨天中止 コロナウイルス感染拡大防止のため中止2回	新型コロナウイルスの感染拡大防止の取り組みのなかで、いままでどおりの運営はむずかしく、新しい行事の形をゼロから考え直す必要がある。
	野草名札付け	9回	7回実施した。 参加46人	B	1回雨天中止 コロナウイルス感染拡大防止のため中止1回	上記と同じ
	大町自然観察園環境整備	10回	6回実施した。 参加31人	B	3回雨天中止 コロナウイルス感染拡大防止のため中止1回	上記と同じ

教育普及事業 ②学校連携	出前授業	申し込みを受けて実施する。	17回実施した。	B	中山小学校や塩焼幼稚園など市内園学校、越中島小学校(都内)、国府台女子学院(私立)、千葉商科大学などから依頼があった。	依頼にはできる限り対応したい。
	小学生等自然体験学習指導(大町公園)	申し込みを受けて実施する。	28回実施した。	B	少年自然の家に宿泊して実施するグリーンスクールの中で行うものが多かった。	新型コロナウイルスの感染拡大防止の取り組みのなかで、いままでどおりの運営はむずかしく、新しい行事の形をゼロから考え直す必要がある。
	中学生職場体験指導	申し込みを受けて実施する。	申込がなかった	B	申込があれば対応する。	依頼にはできる限り対応したい。
	小・中・高校生調べ学習指導	申し込みを受けて実施する。	実施した。	B	夏休みの標本作りの支援(名前しらべ)を適宜行った。また、SSHに指定されている私立高校生の専門的な研究のために実験材料を提供した。	依頼にはできる限り対応したい。
	大学生学芸員課程館務実習指導	8月	1回実施した。	B	予定したプログラムを行うことができた。	依頼にはできる限り対応したい。
	教員研修会講師派遣	申し込みを受けて実施する。	申込がなかった	B	申込があれば対応する。	依頼にはできる限り対応したい。
	教員対象フォローアップ研修	申し込みを受けて実施する。	1回実施した。	B	「令和元年度中堅教諭等資質向上研修(県立学校等教諭)」の研修を実施した。	依頼にはできる限り対応したい。

令和元年度 自然博物館 事業実施状況評価

	事業名	目標又は予定	実施及び達成状況	評価	評価根拠	次年度への課題
教育普及事業 ③地域連携	(公民館、市民団体等) 講座講師派遣	年間を通して実施する。	実施した。	B	依頼に適切に対応した。	依頼にはできる限り対応したい。
	大町レクリエーションゾーンフェスティバル	11月、1月	実施した。	B	依頼に適切に対応した。	依頼にはできる限り対応したい。
	出張展示・展示解説及び出張体験指導(小・中学校祭り、少年自然の家チャレンジャースクール等)	申し込みを受けて実施する。	実施した。	B	依頼に適切に対応した。	依頼にはできる限り対応したい。
	観光関係機関、部署との連携	年間を通して実施する。	実施した。	B	依頼に適切に対応した。	依頼にはできる限り対応したい。

運営	自然博物館だよりの制作及び発行	隔月発行	実施した。	B	予定通り発行した。	業務のリモート化を進める一環で、紙での提供を中止したい。
	2020年度自然博物館行事案内の発行	3月、1500部	予定通り作成したが、コロナウイルス感染拡大防止のため配布をしていない。	C	配布をしていない	業務のリモート化を進める一環で、紙での提供を中止したい。
	平成30年度自然博物館年報の制作及び発行	3月、500部	実施した。	B	予定通り発行した。	予定通り発行したい。
	施設の維持管理及び庶務事務	年間を通して実施する。	実施した。	B	予定通り実施した。	コロナウイルス感染拡大防止対策を行うことが求められている。

令和2年度 考古博物館 事業計画

事業種別		事業名	予定日及び見込み数
調査・保管及び		1. 収蔵資料の調査、整理	1,000点/年
		2. 市内出土資料調査	年間を通して実施
		3. 博物館資料のパソコン管理（収蔵品・図書・住所ほか）	1,000件/年
		4. 各種研究会への参加、各地博物館の視察	随時
		5. 文化財担当関係調査	年間を通して実施
		6. 市史編纂関係調査（曾谷貝塚・下総国府）	年間を通して実施
		7. 曾谷貝塚総括報告書作成	年間を通して実施
展示		1. 常設展及び北国分駅構内展示	年間を通して実施
		2. ホール小展示「宝相華文」	～6/14(日)→令和3年7月末
		3. 巡回展「組紐」	9～12月
		4. 展示解説（考古博物館ガイドツアー）	土・日曜日ほか
市民向けの教育普及	生涯学習拠点として市民の学びと体験を支える事業	1. 市川歴史カレッジ（第12期）	9月～第2土曜日→中止
		2. 市川歴史カレッジ公開講演会「丸木舟」	5/30(土)→11/7(土)→中止
		3. 考古博物館講座『日本霊異記』を読む	10→7回/年第2水曜日→中止
		4. 考古博物館講座『続日本紀』を読む	10→7回/年第4水曜日→中止
		5. 火おこし・縄文学習・組紐指導員の養成講座ならびに活動支援	土・日曜日ほか→中止
		6. 土器・勾玉・クテ打ち組紐づくり	4・5月, 7・8月, 11・12月→中止
		7. サマーフェスタ(1)夏休みスタンプラリー	7・8月→中止
		8. サマーフェスタ(2)ナイトミュージアム	8/22(土)→中止
		9. サマーフェスタ(3)縄文体験・竹細工	8/15(土)→中止
		10. 縄文体験フェスティバル（第21回）	3/28(日)→中止
学校関連の教育普及	子どもの成長や学びを支援する事業	◎学校関連	
		1. 学校巡回展、出前授業	申し込みにより実施
		2. 小学生向け体験学習指導	4～7月→中止
		3. 中学生職場体験指導	申し込みにより実施
		4. 大学学芸員課程館務実習指導	7/28～8/7
		5. 千葉商科大学出張展示	年間を通して実施
		6. 学生調べ学習指導	年間を通して実施
◎教員関連			
1. 市立小中学校教員研修会	調整中		
地域連携の教育普及	地域の文化やコミュニティをサポートする事業	1. 博物館友の会事業協力	依頼により実施
		2. 公民館講座（社会教育課）	依頼により実施
		3. 地域まつり（自治会等）	依頼により実施
		4. 市内公共施設出張展示（各所管課）	依頼により実施
		5. 市内公共施設出張展示ギャラリートーク（各所管課）	依頼により実施
		6. 外部依頼講座（他自治体及び市民団体）	依頼により実施
運営		1. 令和元年度考古博物館館報（第48号）発行	3月、800部
		2. 「考古・歴史博物館だより」発行	季刊、4回/年
		3. 令和3年度考古・歴史博物館行事案内発行	令和3年4月
		4. 博物館協議会事務局事務	2回/年
		5. 縄文WEB作成業務	年間を通して実施
		6. 施設の維持管理	年間を通して実施
		7. 施設整備（休館）	2/16(火)～19(金)

令和2年度 歴史博物館 事業計画

事業種別	事業名	予定日及び見込み数	
収集・保管及び調査研究	1. 収蔵資料の調査、整理及びデータベース化	500点/年	
	2. 市内公共施設所蔵資料調査	年間を通して実施	
	3. 博物館資料のパソコン管理（図書管理・住所管理）	1,000件/年	
	4. 各種研究会への参加、各地博物館の視察	随時	
	5. 文化財担当関係調査	依頼により実施	
	6. 市史編纂調査協力	年間を通して実施	
展示	1. 常設展	年間を通して実施	
	2. ホール小展示「季節の展示」	未定（4回）	
	3. 郷土史コーナー展示「2年度館務実習展示」	9/5(土)～	
	4. 企画展「発見・体験昔の暮らし」	9/4(金)～12/13(日)	
	5. 展示解説（歴史博物館ヒストリーツアー）	中止	
	6. 企画展「葛飾八幡宮と藪知らず」	7/17(金)～9/6(日) →2/14(日)～3/28(日)	
	7. 企画展関連講演会	中止	
	8. 企画展書小学生用講座「歴史地図づくり・八幡」	中止	
	9. 企画展「ギャラリートーク・映像を見る会」	中止	
市民向けの教育普及	生涯学習拠点として市民の学びと体験を支える事業	1. 歴史博物館講座「明治時代の大柏地域の文書を読む」	7回/年(土) →中止
		2. 歴史博物館講座「近代史講座2」	中止
		3. 歴史博物館講座「民俗学講座」	中止
		4. 歴史博物館講座「古文書講座(初心者向け)」	中止
		5. 歴史カレッジ	中止
		6. 体験学習指導員定例研修会	1回/月（主に第4土曜日）→中止
		7. 昔の遊び体験	毎週 土・日曜日 →中止
		8. サマーフェスタ(1)夏休みスタンプラリー	中止
		9. サマーフェスタ(2)ナイトミュージアム	8/22(日) →中止
		10. サマーフェスタ(3)洗濯体験	7/26(日) →中止
		11. サマーフェスタ(4)竹の水鉄砲作り	8/20(木) →中止
		12. サマーフェスタ(5)和綴じ本作り	8月 →中止
		13. 正月飾り作り	12月 →中止
		14. 縄文体験フェスティバル	3/28(日) →中止
学校関連の教育普及	子どもの成長や学びを支える事業	◎学校関連	
		1. 学校巡回展、出前授業	申し込みにより実施
		2. 小学生向け体験学習指導	9～2月
		3. 中学生職場体験指導	申し込みにより実施
		4. 大学学芸員課程館務実習指導	8/21(金)、8/28(金)～9/4(金)
		5. 学生調べ学習指導	年間を通して実施
		◎教員関連	
1. 市立小中学校教員研修会	調整中		
地域連携の教育普及	地域の文化やコミュニティをサポートする事業	1. 博物館友の会事業協力	依頼により実施
		2. 公民館講座（社会教育課）	依頼により実施
		3. 地域まつり（自治会等）	依頼により実施
		4. 市内公共施設出張展示（各所管課）	依頼により実施
		5. 市内公共施設出張展示ギャラリートーク（各所管課）	依頼により実施
		6. 外部依頼講座（他自治体及び市民団体）	依頼により実施
運営		1. 令和元年度歴史博物館館報発行	3月、800部
		2. 「考古・歴史博物館だより」発行	季刊、4回/年
		3. 令和3年度考古・歴史博物館行事案内発行	令和3年4月
		4. 博物館協議会事務局事務	2回/年
		5. 施設の維持管理	年間を通して実施
		6. 施設整備（休館）	2/16(火)～19(金)

令和2年度 自然博物館 事業計画

事業種別	事業名	予定日及び見込み数	
収集・調査研究 調査・保管及び	1. 収蔵資料の調査・整理	随時 (ボランティアも含む)	
	2. 博物館資料の専用パソコン管理	随時	
	3. 各種研究会への参加、関連施設の視察	4回/年	
	4. トビハゼ調査	2回/年	
	5. ヒヌマイトトンボ調査	7月	
	6. 長田谷津再整備検証 (生物多様性いちかわ戦略)	随時	
	7. 剥製制作委託	3月	
展示	1. 常設展 (市川の自然)	304日開館 → 248日	
	2. 特別展示室の常時活用 (飼育展示など)	304日開館 → 248日	
	3. ホール小展示 (飼育展示など)	304日開館 → 248日	
	4. 自然観察園のみどころの掲示	毎月適宜	
市民向けの教育普及	生涯学習拠点として市民の学びと体験を支える事業	1. おやこ自然観察会	5回 → 1回→中止
		2. 長田谷津散策会	12回 → 7回→中止
		3. 長田谷津ボランティア 野草名札付け	9回 → 4回→中止
		4. 長田谷津ボランティア 自然観察園環境整備	10回 → 7回→中止
学校関連の教育普及	子どもの成長や学びを支援する事業	◎学校関連	
		1. 出張授業	依頼により実施
		2. 小学生向け自然観察学習指導 (グリーンスクールも含む)	依頼により実施
		3. 中学生職場体験指導	依頼により実施
		4. 高校生向け自然観察学習指導	依頼により実施
		5. 大学学芸員課程館務実習指導	7/31~8/12
		◎教員関連	
1. 市立小中学校教員研修会	依頼により実施		
地域連携の教育普及	地域の文化やコミュニティをサポートする事業	1. 公民館講座 (社会教育課)	依頼により実施
		2. 大町レクリエーションゾーン「秋のフェスティバル」 「初夢フェスティバル」 (動植物園主催事業にイベント協力)	10月、1月
		3. ホテル観賞会期間の開館時間延長	7~8月延べ8日 → 中止
		4. 外部依頼講座 (他自治体及び市民団体)	依頼により実施
運営		1. 令和1年度自然博物館年報 (No.31) 発行	500部 3月
		2. 「市川自然博物館だより」発行	1,750部/6回 (隔月)
		3. 2021年度自然博物館行事案内の発行	1,500部 3月
		4. 施設の維持管理	毎日
		5. 飼育展示 生きもの管理	毎日